Service learning

第１回 芸文短大・地域活動フォーラム

ひたむきに取り組んだサービスラーニング！
社会体験の集大成を多彩に報告！！

❑ あしなが育英会

あしなが育英会は、4月と10月の2回行われた『あしなが学生募金』と11月に行われた『あしながPウォーク10』について発表した。

募金額が芸短生だけで春に1,009,100円、秋には365,935円という結果になった。春は、メディア効果もあってか、過去の大分の最高額となった。

Pウォークとは、遺児学生らが開催する世界の遺児への寺子屋支援と、日本留学支援のためのチャリティーウォークのことである。

これらの活動を通して、多くのことを学んだ。改めて自分たちが行っている活動の重要性も分かり、今まで以上にこれからの活動も頑張ろうと思った。

（reported by 1年・武南愛、同・藤田耀）

❑ 日韓次世代交流映画祭

12月11日から3日間、別府ビーコンプラザで行われた。別府・大分の学生、約80人がスタッフとして参加。韓国の映画十数本を上映し、韓国の国民俳優アン・ソンギさんらをゲストに迎えて本格的なものとなった。

学生が中心となって作り上げた。準備作業は夜中の3時まで続くなど、苦しい面もあったが、実際に活動に携わることで自信を手に入れることが出来た。

最終日、最後の映画が上映され終わったとき、会場は感動の涙で包まれていた。今年最後の大きなイベントを、大成功で終わらせたことを大変うれしく思う。

（reported by 1年・井上千尋、同・森本絵美莉、同・吉弘梓）

❑「SAEMON23」

09年7月23日夜に行われた鶴崎商店街の夏祭り「SAEMON23」に、約100人の芸短大生が参加した。8年前、共通科目「地域社会特講」の講師として、主催者の商工会議所鶴崎支所メンバーが招かれ、参加を呼び掛けたのがきっかけ。今回はダンス以外にステージ企画も担当し、鶴崎の方々や初参加の日本文理大との話し合いを重ねた。

見どころは、やはり学生自身が振付した創作ダンス。体育館で汗を流しながら、練習を繰り返し、本番では熱演にあたたかい拍手をもらった。ごみを減らすための新企画「エコステーション」運動も成功し、お祭りは大いに賑わった。

（reported by １年・成松美由紀、同・塗木亜紀乃）

❑ 大分七夕まつり

8月18日、大分七夕まつりに参加した。午前10時からの風船づくりに本学の学生約５０名が、「めじろんダンスと打ち水大作戦」には約30名が参加した。「七夕ブロードウェイ」では風船を運び市民に配り、リリースを手伝った。

使われた風船は「エコ風船」という土に還るものだ。

1万5千個の風船を膨らますのは大変だったが、夜空に舞い上がっていくのを見た時、疲れていることを忘れるほどの感動と達成感を感じることが出来た。

（reported by1年・小坂由真、同・三苫里奈、同・吉崎美紀、同・坂本由紀恵）

❑ 上野の森アートフェスティバル

11月7・8日の2日間に渡り上野の森アートフェスティバルが開催された。当日は美術館から上野丘墓地公園周辺の様々な箇所でワークショップや展示などが行われ、多くの親子連れや地域の人達で賑わった。

フェスティバルには多くの人たちが様々な形で関わっている。普段は主婦という方たちもこの日ばかりは出店の準備に専念する。地域もいつもと違った雰囲気に包まれ、笑い声や楽しさで溢れる。ワークショップを開くことで地域一体で作りあげるこのイベント関わることができて本当に良かった。

（reported by 1年・荒木夏穂、同・羽田久美子）

❑ 上野の森の会

森の会とは、大分市の都市中心部に近く、なおも豊かな自然の残る「上野の森」で周辺の方々や専門家を中心に、大分市公園管理事務所と協議しながら、森の生態系を守り、より豊かにするために活動している。 剪定　や落ち葉・枯葉の除去。また、ゴミ拾いなどの活動を通して遊歩道を歩きやすくするなどと森の環境保全に努めてる。

活動後には大分の郷土料理である「やせうま」などを作ってみんなで楽しんでいる。

（reported by ２年・牧野愛美、同・森永詩織）

❑ キャンパスカフェ

キャンパスカフェは大分県内の大学生が作る紙面だ。毎月第３水曜日発行の毎日新聞大分版に１ページ大で掲載されている。

学生の目線で紙面を作ることができる。キャンパスカフェの特権であり、強みだ。しかし、「学生」という甘えを持ってはならない。「記者」であることにかわりはないからだ。

記者は取材先と読者をつなぐ架け橋である。読者に信頼される記者になれるよう、ますます精進したい。

（reported by １年・赤池すずか、佐藤明日美）

❑ 湯布院映画祭

第34回湯布院映画祭には、芸短大から6人参加した。実行委員会への参加、宣伝活動などの事前準備から、本番の会場設営、受付、販売など様々な種類の仕事をした。また、空き時間に映画（白黒映画や新作の映画など）を観たり、シンポジウムに参加したりと仕事以外にも様々な経験ができた。

一番思い出に残っているのは、脚本家の方と話せたこと。映画に詳しくなくても、とても楽しむことができた。

（reported by 1年・安部愛理、同・大谷遥奈、同・日高怜瑚）

❑ 天瀬グリーンツーリズム

天瀬グリーンツーリズム研究会は、2006年9月13日発足した。

会員26名。農家民泊４軒。ロゴマークはイチョウの葉をあしらったものである。体験は季節、天候、それぞれの農家によって大きく変わってくるので、年間を通して楽しめる。

（reported by １年・岩男有希、同・一岡美穂、同・花木みずき）

❑ 竹田食育ツーリズム

「とうきびの里」で知られる大分県竹田市で、生産者交流や収穫体験などを行なった。食育ツーリズムについて学ぶことが目的だ。7月18・19日の2日間にわたって開催され、情報コミュニケーション学科の学生19名が参加した。

早朝４時から起きだして、とうきびの「プレミアム収穫体験」や、「とうきびフェスタ」で、販売のお手伝いをした。

全国に先駆けて食育ツーリズムの取り組みを進めている「竹田市経済活性化促進協議会」の協力のもとで実現した。

（reported by 1年・安部彩香、同・扇谷早紀、同・甲斐文子）

❑ 佐賀関サイクリング

佐賀関サイクリングの参加のねらいは、「コミュニケーション力の向上」や「地域活性化の現場を体験」など4項目。自身の考えを加えて述べた。そして、実際に体験してどういう活動だったのかを細かく伝えた。

スタッフの集合場所での打ち合わせや、参加者へ配った資料の内容。サイクルトレインへの自転車の積み込み、電車の中の様子などを紹介した。

一般参加者の感想を紹介し、どれだけ楽しい活動だったのかを伝えた。最後に、活動を終えてのスタッフの反省や感動を一人ずつ発表した。

（reported by 1年・斎藤兼信、同・鳴海裕太、同・山元泰幸、同・鎌田麻衣）

Interview

テレビ大分報道局長：池辺 強さん
動画・スライドを高く評価

「非常におもしろい報告会だった」。特にSAEMON23は「道端に捨てられるゴミに気づき、ゴミステーションの活動を始めて周りの人にも働きかけているところがよい」と評価する。日韓次世代交流映画祭の動画や、グリーンツーリズムなどのスライドも高く評価したが、「活動によって自分がどのように変わったかが大事だ。そのような感想が少なかった」との指摘も。サービスラーニングの意味を見直す適切なアドバイスと思えた。

（written by 1年・藤田耀）

Interview

別府ビーコンプラザGM：米田 正行さん
竹田食育ツーリズムに関心

「発表会参加の依頼を受けて軽い気持ちで参加した」という米田さん。「学生の真剣なプレゼンテーションを見て、気を引き締めて臨んだ」と語る。もっとも関心をもったのは、「竹田食育ツーリズム」だ。とうもろこしを収穫するイベントは、華やかさに欠けるが、大分の特産品を知るためには、なくてはならないものだという。「この活動を続けていってほしい」

（written by 1年・鎌田麻衣）

Interview

大分中学校・大分高等学校校長：小山 康直さん
「これからが成長のカギだ」

「サービスラーニングに参加して、自分は変われた、と思い込んだほうがいい」。発表を終えた学生たちに、力強いメッセージを送った。

発表に関する基本的な指摘も。「体験発表に参加した人数が、サービスラーニングの参加者総数のように思えた。だから、まず参加者数を示した後で、発表したほうが分かりやすい」。なるほどと思える指摘だ。

「体験を発表したことで個人のナラティブは完結した。しかし、これからの気持ちが成長のカギだ。自信を持って取り組んでほしい」と語る口調は、さすがに教育現場の人ならではの温かさがこもっていた。「芸短大として一から新しく、地域活動を作っていけばいい。」

（written by 1年・古庄春菜）

Interview

大分合同新聞 特別編集委員：可児 敦彦さん
「発表が一律的だった」

開口一番「発表が一律的だった」。新聞記者らしく辛口のコメントで、学生に衝撃を与えた。

地域活動フォーラム終了後、私は可児さんに「伝えるということに関して、可児さん自身のモットーは何ですか？」とお聞きした。答えはこうだった。「伝えようとする人の演出力、お互いが聞き役となり、どう考えるかが大切だ」。

可児さんによると「人に伝えることでは思い切りが大切だ」という。「4倍と書いて芝居（しばい）と読む」と可児さん。卓越な警句に聞こえた。辛口のコメントもよい刺激になった

（written by 1年・大野詩織）

Interview

大分銀行社会貢献室長：炭本 典生さん
「社会とかかわる活動を」

「私にも子供がいます。親と子の目線で、すべての発表を聞きました」。こう切り出した炭本さんにとって、一番印象に残っているのは「上野の森の会」の発表会だという。「上野の森にサンショウウオがいることに驚いた」。身近な所に豊かな自然があることに驚いた。

大分銀行は、さまざまな社会貢献活動をしている。地域と関わることは、自己アピールにもつながる。「これからも学生の皆さんには、地域とかかわるさまざまな地域活動に参加していってほしい」

（written by 1年・佐藤明日美）

Interview

吉良 伸一 学科長
「パワーアップめざす」

初めての体験発表会にしては、とてもよかった。全ての活動が例年よりパワーアップしていた。発表の内容や方法について、専門家からはやや辛口の意見が出たが、期末試験などがあり時間がなかった割には、学生たちは本当によくがんばった。

来年からは「ナラティブ能力プログラム」を通じて、発表等の指導、内容の説明をしっかり学習します。人を惹きつける素晴らしい発表ができるようになるでしょう。来年は他大学の学生たちとのプログラムや、国際的な活動も用意しています。来年は更にパワーアップします。期待してください。

（written by 2年・吉野靖子）

Making of FILM FESTIVAL
「파이팅 －ファイティン－」

「きみ、映画祭の記録映画つくって」。その教授の一言が、私の映画祭の幕開けを告げたのだった。昨年12月に別府で開催された「第二回日韓次世代交流映画祭」。両国のさらなる親交と次世代を担う若者たちの活躍を目的としたこの映画祭で、私は記録係のキャップを務めた。

そして、それと同時に、Making Of FILM FESTIVAL「ファイティン」の制作・監督を任せられたのだ。この経験は私にとって大きな成長となっただけでなく、未来への確かな展望を拓かせてくれた。

作品が完成するまでにぶつかった困難は数えきれない。完璧主義ゆえに出来ない自分自身にいら立ち、時間という制約の前に何度心折れそうになったことだろう。しかし、その度に本当に多くの人、友人に助けられた。撮影に協力してくれた人、編集作業を手伝ってくれた人、夜遅くまでそばにいてくれた人、今作品は、その全ての人との共同作品だ。

きっと私ひとりではこのような作品は完成しなかっただろう。遊ぶことは、決して手を抜くことではないのだ。見た人を「ぶっ」と笑わせる、そんな作品をこれから作っていきたい。

（written by 1年・森本愛里）

Making Of FILM FESTIVAL「ファイティン」Webで公開中！！　http://ameblo.jp/jk-nextfilm/

1/12(tue) 県議会出前講座
学生から活発な質問

1月12日の「地域社会特講」は、大分県議会による『議員出前講座』を開催した。

安部省祐議長のほか、講師として渕健児議員（大分市）と玉田輝義議員（豊後大野市）、さらにオブサーバーとして平岩純子議員（大分市）も出席した。

渕議員が県議会の仕組みと役割について話し、次いで玉田議員から県議会の仕事を紹介した。学生たちからは「議員を目指すことになった契機は？」「国の政権交代をどう思うか」「傍聴するには手続きが必要なのか？」「県議会で今、一番解決しなければいけないと思う問題は？」など様々な質問が飛び交い、県議会が身近に感じられる有意義な時間になった。

安部議長は「コミュニケーションの取り方で一番必要なことは本音の部分。これをいかにして収集するかが重要です。ネットで検索すれば情報は何でも得られる時代ですが、間違った情報を鵜呑みにしてしまう可能性も十分にあります。便利になった世の中だからこそ、自分で実際に足を運んだり、面と向かって話すことでその情報の真実や本音を見つけ出し、物事を判断してほしい」と語っていた。

2009「地域社会特講」リスト

4月21日	BEPPU PROJECT 代表理事：林 曉甫氏 **「現代アートとまちづくり」**
4月28日	Re空間 代表：神田 京子氏 **「スローライフと再生のまちづくり」**
5月12日	鶴崎商工青年部長：松井 和美氏 **「鶴崎のまちづくりと鶴崎サエモン二十三夜」**
5月19日	大分青年会議所 理事長：江王 睦秀氏 **「青年会議所とまちづくり」**
5月26日	大分市都市計画部都市交通対策課自転車総合対策担当班 **「自転車の似合うまちづくりバイシクル・フレンドリー・タウン・おおいたの取り組みについて」**
6月9日	おおいた上野の森の会事務局局長：池松 信子氏 **「上野の森を守り育てる」**
6月16日	竹田市経済活性化促進協議会 **「厚生労働省新パッケージ事業『食育ツーリズム雇用創出大作戦！』」**
6月30日	NPO法人青少年育成保護協会 理事長：秀嶋 良昭氏 **「ネットと子育て支援」**
7月7日	おおいた子ども劇場：村上 規子氏 **「もっとゆとりを、もっと遊びを、もっともっと文化と芸術を」**
10月6日	フリースペース フリーリー コーディネーター：榎原 陽子氏 **「発達障害・学習障害とフリースクール・フリーリーの活動」**
10月13日	季の風経営 社会福祉法人すぎのこ村元理事長：松浦 吐四朗氏 **「知的障害とすぎのこ村」**
10月20日	NPO法人えばの会：糸原 幸子氏 **「女性の人権を守る」**
10月27日	深見 博・憲氏 **「自閉症（広汎性発達障害）、地域、コミュニケーション」**
11月10日	九州アフリカ・ライオン・サファリ株式会社 獣医師：神田 岳委氏 **「動物と人間のコミュニケーション～言葉でない言葉～」**
11月17日	臨床心理士：長谷川 美枝子氏 **「障害児と家族～親の立場から～」**
11月24日	仮想（設計施行）代表：行野 富男氏 **「環境と住宅について考える」**
12月1日	多摩大学経営情報学部教授：樋口 裕一氏 **「知的な話し方を身につける。そのためにはクラシックを聴こう！」**
12月8日	大分市福祉保健部福祉事務所長寿福祉課権利擁護担当班主任：植田 卓士氏 上野ヶ丘・碩田地域包括センター社会福祉：美馬 かおり氏 **「認知症サポーター養成講座」**
12月15日	人形劇ボランティア：曾根崎 順子氏 **「子どもとのコミュニケーション～人形劇の世界～」**
12月22日	製作・脚本：山下 久仁明氏 **「ぼくはうみをみたくなりました」上映会**
2010年 1月12日	「地域社会特講」 **大分県議会による「議員出前講座」**

…前期　…後期